

case

水産

内水面水産試験場
生産技術部

(平成26年度採用)

わたしを表すキーワード

keyword 01

5

#魚好き

魚を釣る、育てるよりも、私は魚料理を食べるのが好きです。水族館では美味しそうと思いながら、鑑賞するタイプです。

keyword 02

#一児の父

育児休業を活用し、育児に奮闘しました。今は仕事から帰った後や休日に子供と遊ぶ時間が一番の楽しみです。

keyword 03

keyword 04

#現場力

#ゴルフ

keyword 05

#オンラインゲーム



略歴

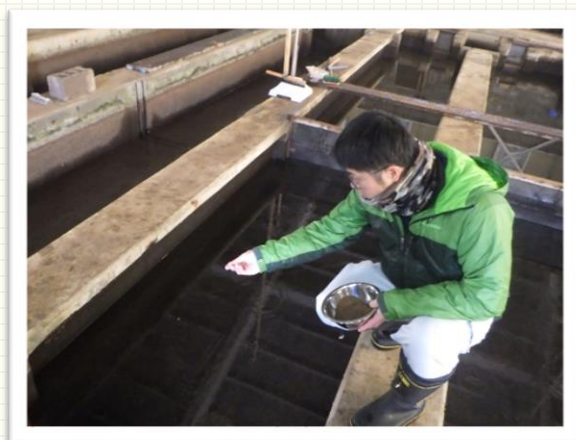
- H26～H27 生産流通総室 水産課
 H28～H30 水産試験場 水産資源部
 H31～R2 水産海洋研究センター 海洋漁業部
 R3～現在 内水面水産試験場 生産技術部

水産現場から頼り頼られるために

内水面水産試験場生産技術部では養殖技術に関する試験研究を行っています。品質向上のためバイテク技術を使ったイワナやコイなどの種苗生産研究や、県内の河川湖沼向けの放流種苗の生産を行っています。また、魚病の診断や指導も行っており、養殖業界になくてはならない組織としてやりがいを感じています。

県職員を目指した理由

祖父が水産加工業を営んでおり、幼い頃から「水産」が身近にありました。学生の頃、東日本大震災をきっかけに、地元である福島県の水産関係に貢献したいと思い、水産職を希望しました。



↑ヤマメ稚魚への餌やり

とある一日のスケジュール

8:30

始業

9:00

池掃除、餌やり

10:00

魚体測定、水質測定

11:00

餌やり

11:30

デスクワーク

12:00

昼休み

13:00

池掃除、餌やり

14:00

飼育池の掃除と魚移動

16:00

餌やり

16:30

デスクワーク

17:15

終業

印象に残っている経験・エピソード

内水面水産試験場では放射線モニタリング検査のため、養殖場へ行き、業者から検体を受け取っています。回数を重ねていくうちに、養殖技術のノウハウや要望など意見交換するようになり、今では業務の刺激になっています。実際に、業者の養殖技術を取り入れたこともあり、現場に出向くことの大切さを実感しました。



福島県職員として、実現したいこと・目標としていること



↑ニジマスの採卵作業

水産職は養殖業者や漁業者などからの信頼関係から成り立っております。業者が親から子へ世代交代しても、水産職の担当が変わってもその関係は続いています。福島県職員として、これまで先輩方が培ってきた信頼関係をさらに強固にするとともに、業者と一体になってさらなる水産業の発展に貢献していきたいと思っています。

(令和5年3月現在)